

月報 2022 年 3 月 31 日 No.374

石城山岳会

3 月号

四方通信

石城山岳会事務局編集

湯ノ岳

五色沼

中吾妻山 1930.9m

蝦夷嶽・羽山・東山縦走

豎破山（658m）

鞍掛山・黒石山縦走

日影山・東堂山縦走

スノウトレッキング ルート調査 大早稲沢山、築部山

戸山城跡・会津山塩ラーメン

猫魔スキー場から、雄国沼、雄国山經由ラビスパ裏磐梯ヘスキー縦走

三轟山（青竜ヶ岳・中岳）カタクリ群生地

ミツマタ群生地を訪ね鶏足山・焼森山

湯ノ岳

2022年2月6日（日）
蛭田(み)、伊藤(貴)、佐藤(幸)

石城山岳会12月の七峰縦走参加予定でしたが、大雨のため中止になり、他の日参加できなかった3名で、湯ノ岳登山をすることになりました。コロナまん延防止中のため、各自で現地集合し、丸山公園からではなく田場坂からスタートすることになりました。久しぶりの登山のため、登山道に付いている赤いテープを確認し、怪我しないように足元を見ながらゆっくり登山しました。最近家からあまり外出しなかったため、自然の空気を思いっきり吸うことができ、爽快感を得ることができました。あっという間に湯ノ岳山頂に着き、湯ノ岳パノラマライン展望台に着きました。1年前にも、湯ノ岳登山をしてましたが、風力発電のための、木々の伐採が広い範囲でおこなわれており、登山道を見落としてしまいそうなくらい、山の風景が変わっていました。急に強風が私たちをおそい、寒さに驚きました。お昼の時間になり、カップラーメンにお湯をいれ3人で昼食をとりました。寒さのため、外に出している手が凍りそうでした。下山は、寒さのため、話すこともすくなくなり、もくもくと歩きました。冬山の温度変化の恐ろしさを体感しました。

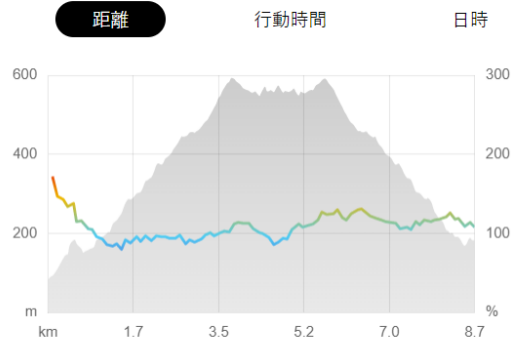
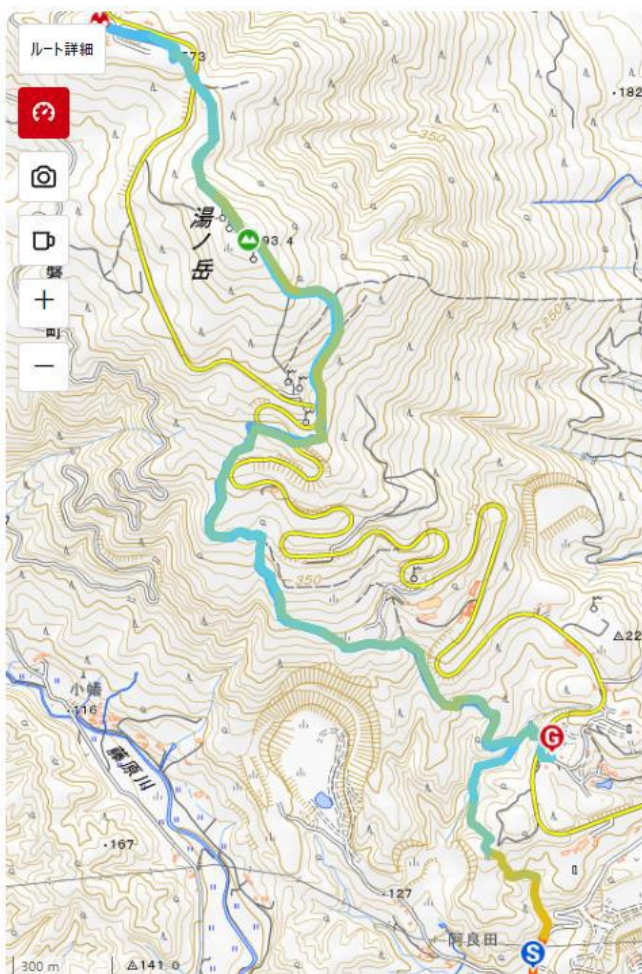
文責：佐藤(幸)

05:02

8.7km

上り
729m

下り
629m



山の情報 湯ノ岳 (福島県)

9:26	S	
2時間18分		
11:44		
11:52		湯ノ岳
25分		
12:17		
12:26		湯ノ岳パノラマライン展望台
53分		
13:19		
13:22		湯ノ岳
1時間7分		
14:29	G	



五色沼

2022年2月25日（金） 佐藤(幸)

朝7:30分平日と言うこともあり、ゆっくりめの時間に湯本かげつ出発。いわきには、雪がなく、天気予報によれば裏磐梯、午前中は雪、午後には晴れ。大雪よりは、晴れの方がいいと考え、久しぶりのスノーシュー。高速道路であれば、多少雪があってもいけるだろうと予想しました。予想通り、除雪車が通過した後で、道路脇には大量の雪がありましたが、道路には少量の雪で凍ってなかったため、スムーズに現地に着くことが出来ました。当所の予定では、毘沙門沼から五色沼トレッキングをする予定でしたが、毘沙門沼周辺には、車がなく、大量の雪で駐車場がわからず、裏磐梯レイクリゾートに駐車することになりました。柳沼、青沼の入り口を探しましたが、わからず、桧原湖に着いてしまいました。桧原湖駐車場は除雪のためか、大量の雪の中にありました。湖面上には、ワカサギ釣りの小屋がみえました。吹雪と寒さのため、震える手で写真をとりました。

もう一度、柳沼の入り口を探そうと思いだの脇を歩いていると、物産店を発見し中に入れることがわかりました。中は無人でしたが、暖房が入っており、トイレも暖かくなっていたので、3人でゆっくり昼食をとり、くつろくことができました。その後スキーをしている人を見つけ、やっと柳沼の入り口がわかりました。スノーシューで時間ぎりぎりまでスノーハイクすることになりました。弥六沼、柳沼、青沼まで、スノーシューハイクをすることができました。青く輝く水面、上を見ると青空、周りは白い雪なんて綺麗な景色。3人で頑張ってきて良かったと思いました。

時間になり、駐車場にむかい、温泉のあるホテルに行きました。温泉は、3人の貸切風呂でした。体の疲れをとり、家路に着くことが出来ました。とても楽しく過ごすことができました。

文責：佐藤(幸)



コースタイム

10:37	S	
13分		
10:50	五色沼 >	
10:50	五色沼 >	
10:50 10:52	五色沼 >	
9分		
11:02 11:04	裏磐梯高原駅 >	
1時間 4分		
12:09	五色沼 >	
12:09	五色沼 >	
12:09	五色沼 >	
1時間 16分		
13:26	五色沼 >	
13:26	五色沼 >	
13:26	五色沼 >	
13:27	裏磐梯高原駅 >	
16分		
13:44	裏磐梯レクリゾート >	
13:44	G	



中吾妻山 1930.9m

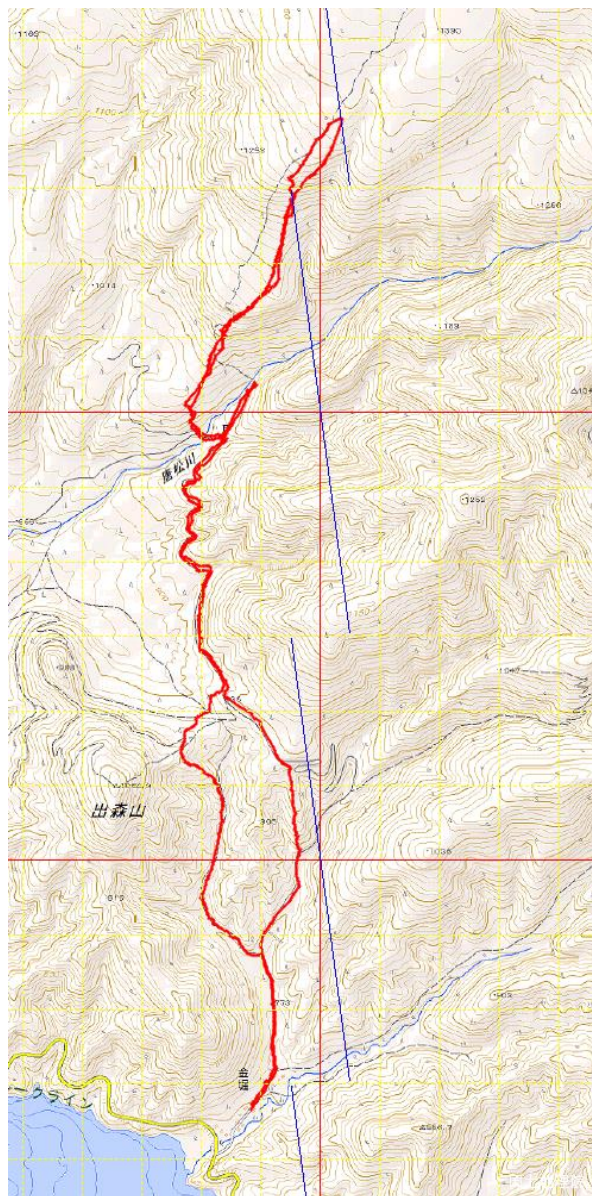
2022年2月26日（土） 菅野、渡辺(敏)

金堀集落から中吾妻山へ菅野さんとスキーで行くことにした。中吾妻山へは夏道はなく、無雪期に藪を漕いで行くか、残雪期スキーで行くことになる。無雪期では林道で隠姿菩薩神社の登山口まで車で行けるが、積雪期は金堀集落の除雪最終点から林道を4～5km歩かねばならない。林道歩きの中夏道のルートをとったが、そのコースが結構大変で、時間がだいぶかかってしまった。天候はまずまずで時間がたつごとに気温が上がり、シールに雪がつき団子になってしまう。隠姿菩薩から夏道をたどっていったところ、沢を横切るが沢の徒渉点は流れがむき出しになってスノーブリッジになっていないので渡れない。再度、神社の登山口に戻り沢を渡った先の杉林の中を登って行った。雪がしまっていないのでスキーが沈み時間がかかる。2:00頃には下山を始めないと、林道歩きに時間がかかり暗くなってしまう。山頂へはまたの機会とし、2時前に途中から下山を開始した。このコースは、山頂まで行くには5:00～6:00ころに出発しないと、山頂へは到達できないようである。

コースタイム

金堀集落登山口 8:20→給水所分岐 8:47→林道
10:09→神社口 10:48→沢徒渉点 11:03→神社口
11:14→昼食 12:12 12:25→最高到達点 13:56
14:05→14:42 神社口→金堀集落登山口 16:00

文責：渡辺（敏）



蝦夷嶽・羽山・東山縦走

2022年2月27日（日） 太

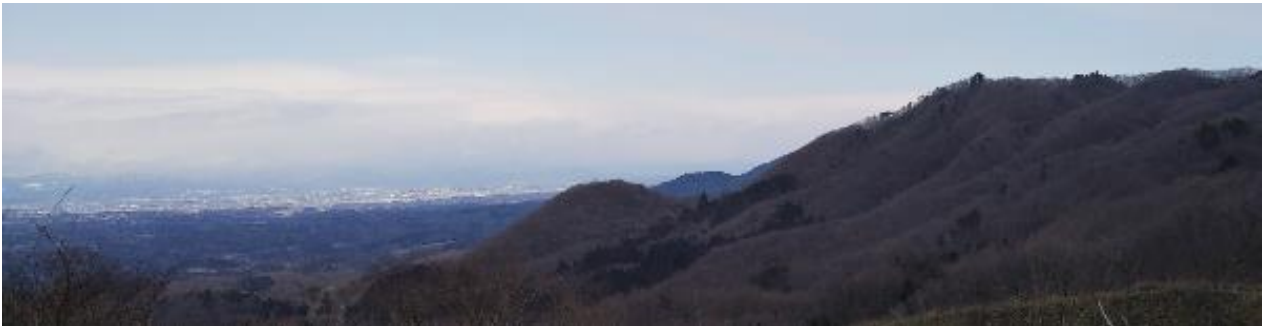
蝦夷岳から東山まで縦走。羽山・取上登山口から羽山に寄って蝦夷岳を往復した後、東山・取上登山口から東山の尾根を縦走して桐久保登山口に下山、県道等を歩いて取上峠に戻った。

あぶくま高原道路の石川母畑 IC から県道 40 号で北上。玉川村四辻新田から取上峠に向かうと、路面凍結のせいか通行止め案内板があった。だが、それなりに車は通行。峠の最高地点「羽山頂上入口」看板を過ぎ、「取上峠・至羽山」案内の前に駐車した。

林道の鎖ゲートを越え、羽山に向かう。少しだがコンクリート舗装部分もあり、羽山分岐まで車で行けそう。分岐からほどなく車の回転場と思しき場所に着き、その一段先が山頂。石碑や石祠のほか、壊れかけの山名板もあった。展望ベンチからは、乙盛山越し麓に「うつくしま未来博」会場跡地、少し先に福島空港、遥かに白く微かな那須連山が望めた。少しだが、須賀川市街地も見える。なかなかの眺望。四等三角点（点名「羽山」689.69m）標石は雪で見つけれず。



分岐まで戻って、蝦夷嶽に向かう。林道は藪化が進んで細い倒木もあり、雪の上には踏み跡もない。篠竹の藪を抜け、鎖ゲートを越えると、旧福島空港ゴルフクラブ（現在メガソーラー発電所）。敷地内は舗装路で、歩きながら振り返ると羽山と乙盛山、須賀川・郡山の市街地方面もよく見えた。



敷地外に出て公道脇の鳥居をくぐり、山頂に進む。山頂直下に展望広場があり、見晴らしが良い。羽山と同じく山頂には、山の神の石碑と石祠がある。傍らに三等三角点（点名「蝦夷岳」670.86m）標石があった。山頂に立つ頃、予報どおりに風が強くなり、綿雪も吹きかけてきた。

来た道を取上峠まで戻り、東山・取上登山口から登る。登山口は峠を少しだけ下った場所で、「阿武隈高原散策ルート東山・取上登山口」案内板が立つ。すぐ脇には水場。杉林の中を進み、土塁に沿って尾根まで急登。尾根に出ると四等三角点（点名「荒沢」759.58m）標石があった。ここから先は、ほぼ土塁に沿った尾根歩き。幸か不幸か、積雪に真新しいトレースがあり、広い場所に出ても迷わず

縦走。大岩を過ぎて東山の最高地点（779m）を気づかず通過、最後の坂を登った先に東山飯豊神社があった。特異な屋根の石祠が2つ。その脇に三等三角点（点名「元曾根」760.85m）標石も並ぶ。降る雪で視界はあまり良くないが、宇津峰が目の前にそびえ、その肩越しに少しでも郡山の市街地が見えた。

時刻と天候、雪の深さも考え、桐久保登山口を確認がてらに下山する。下り始めは蓬田岳が大きく迫る。急斜面や意外に深い雪に注意しながら東山飯豊神社の石鳥居まで下りると、桐久保登山口。

登山口からさらに下ってから県道 40 号を南下、須賀川市道（林道）を経て取上峠に戻った。

文責：太

タイム

9：30 羽山・取上登山口→9：50 羽山→11：10 蝦夷岳→12：25 羽山・取上登山口

12：30 東山・取上登山口→14：05 東山（東山飯豊神社）→14：45 桐久保登山口

→県道 40 号→15：55 羽山・取上登山口



左側の地図で黄線が県道 40 号、破線が須賀川市・玉川村の境界。

右側の上段が羽山山頂、中段が蝦夷岳山頂、下段が東山飯豊神社ピーク。

豎破山（658m）

2022年3月1日(火) 山中

前から気になっていた「太刀割石」を見に日立市十王町にある豎破山（たつわれさん）に登りました。二の鳥居そばの駐車場に向いましたが、途中の林道に少し雪が残っており私の車では先に進めず林道手前の別のルートから登りました。今回は急に思い立ったので自宅を出たのが遅く、登り始めたのが11時半頃になりました。

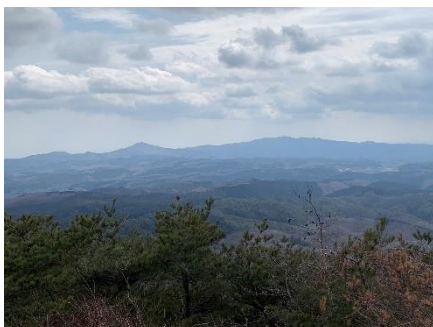
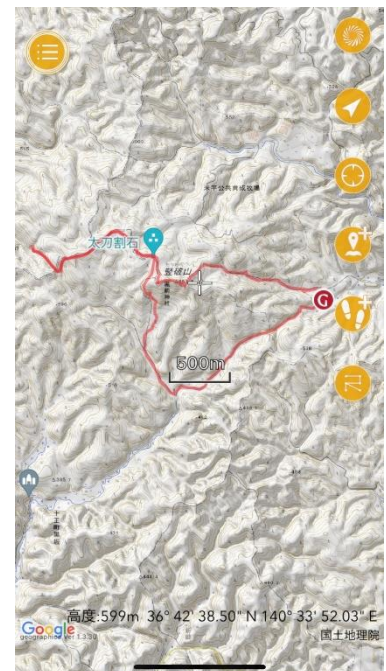
このルートは、最初に周りの木が伐採されている林道を登ると、20分程で米平登山口の分岐になります。分岐を過ぎて林道から稜線に入り登ると山頂手前には胎内石という奇石がありました。豎破山の山頂からは日立の神峰山や高鈴山が望めました。山頂少し下にある黒前神社でお参りし、釈迦堂では舟石と甲石を見てからいよいよ目的の奇石「太刀割石」です。すごいです！！大きな石のテーブルの形をしています、これが自然にできたというのはビックリです！！ここで昼食を取り、ピストンで奈々久良の滝を見に行き、また太刀割石までもどります。往復で約1時間掛かりましたが、滝は残念ながらいまいちでした。この後に仁王門を過ぎ、畳石、烏帽子石、手形石、不動石などの奇石を見て二の鳥居、一の鳥居を経由して車で行けなかった林道を歩いて、登り始めの登山口に到着しました。

コースとしてはハイキングのようなものでしたが、神社やいろいろな奇石があり飽きない山行でした。

[タイム]

林道登山口 11:30→米平登山口分岐 11:50→豎破山山頂 12:20→黒前神社 12:25→太刀割石 12:40→奈々久良の滝 13:25→太刀割石 14:00→二の鳥居 14:25→林道登山口 15:00

（文責：山中）



鞍掛山・黒石山縦走

2022年3月4日（金） 太

郡山市の観光協会によると、鞍掛山は「山頂はなだらかな丘陵で、四方への景色が素晴らしく、スズランやツツジが群生」「気軽に登山が出来る」、黒石山は「国内随一といわれる良質の黒御影石が採掘される」、両山は「峰続き」とのこと。郡山市中田町柳橋字石畑の登山口から鞍掛山、黒石山と登った。

なお、地図では両山の間峠まで林道はあるが、郡山市中田町柳橋字前ノ内側は敷化が進み、田村市船引町堀越字高森側からのみ車で行けるようだ。

字石畑の登山口前、舗装道には駐車できる場所がないので、「鞍掛山登山道入口」案内のある作業道入口付近に路上駐車になる。駐車して登り始めると、倒木が数本。何本か切断・処理されていたが、まだ作業道をふさぐものもある。避けて進むと、何か所か分岐に出会う。ピンクテープに注意して登れば大丈夫。



山頂に近くなると南方向に展望が開ける場所に出る。近くに日影山、一盃山、二ツ石山。その向こう遠くに蓬田岳や宇津峰が見え、郡山市南部、須賀川市街地も見える。霞んでなければ那須連山も見えたはず。浮金石とも呼ばれる黒御影石が、ベンチとして置かれ、仮設トイレも設置されている。



そこから少しで登ると山頂である。山名標柱が2本立ち、近くに小さな四等三角点（点名「鞍掛山」794.48m）標石がある。こちらは西や北にも展望が開け、三春ダムのさくら湖、郡山市街地、安達太良山、吾妻連峰が望める。山頂仮設トイレを過ぎて、林道の峠に向かうと、片曾根山の向こうに、移ヶ岳から大滝根山までが良く眺められ、少し下ると黒石山も見えた。非常に良い眺めである。



鞍掛山から下ると、林道の峠の少し下、田村市側に出て少しだけ登ると、郡山市との境界の峠。黒石山山頂の電波塔群の管理用道路の入口がある。暫くそれを登ると、一番奥の電波塔は東京電力の無線中継局。そこから膝まで雪の積もった林を登ると山頂。地理院標柱の脇に、二等三角点（点名「黒石山」864.21m）標石があった。山頂は雑木林だったので、見晴らしはない。林の奥は浮金石の採石場で崖になっているはずだが、危険であり、雪が深く、藪も濃いので遠慮し、下山することに。

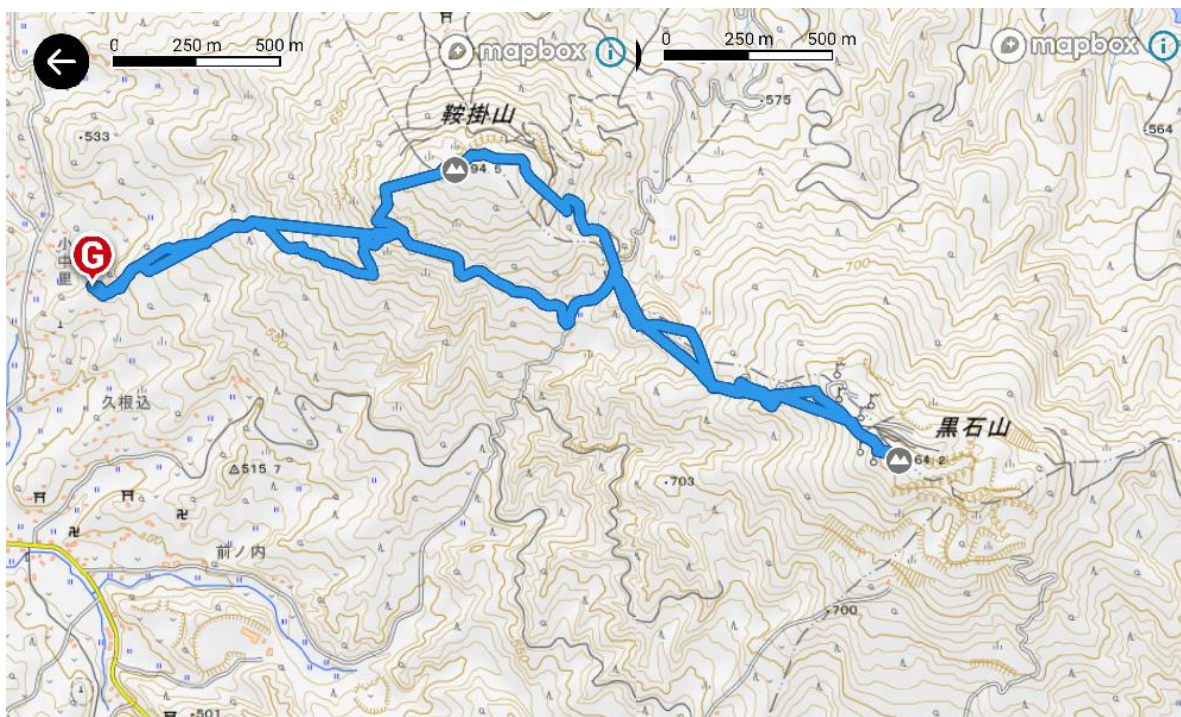


電波塔管理用道路を林道の峠まで戻り、郡山市側に少し下りと、林道は藪になっていた。その付近に「鞍掛山森林公園入口」と消えかかった文字の標柱があり、そこから作業道のような道を進むと、鞍掛山登山道として登ってきた作業道に出合うので、これを下れば中田町柳橋字石畑の「鞍掛山登山道入口」まで戻れる。

文責：太

タイム

13：10 鞍掛山登山口→13：45 展望ベンチ・トイレ→14：00 鞍掛山山頂→14：30 林道峠
→15：05 黒石山山頂→15：35 林道峠→15：40 鞍掛山森林公園入口→16：15 鞍掛山登山口



日影山・東堂山縦走

2022年3月6日（日） 太

ぜひ見たいと思っていた東堂山の五百羅漢と鐘楼。日影山に併せて東堂山を登った。

日影山と東堂山を連続して登るには、小野町「緑とふれあいの森公園」を起終点にするとよい。公園は、キャンプ場ほか、多目的広場等があり、屋外トイレ、遊具なども設置されている。

管理棟「ふれあい森の家」の下、屋外トイレ（使用停止中だった。）付近に駐車。その奥が林道「日影線」終点になっており、林道を歩くと日影山登山口の近くまで行ける。また、丘の上の展望広場からは、東堂山へ遊歩道が続いている。

まず、日影山の山頂を目指す。あえて林道「日影線」を下りずに、林業作業道で水平移動してから、日影山の南東尾根に取りつく。山林境界杭とともに予想どおりに踏み跡があった。多少の藪のほか、雪が深く積もる場所があったが、比較的順調に登る。途中、「山火事用心」とペンキ書きされた大岩があり、そこからすぐに登山道に出る。山頂までは100mほどだった。山頂は周囲が刈り掃われ、東方向の見晴らしが良い。吹きかける雪でおぼろだが、矢大臣山が確認できた。花崗岩の山名標柱の傍ら二等三角点（点名「日影山」879.00m）標石があった。



日影山からの下山は、通常の登山道を使い、雪の積もった折り返しの道を下りた。途中、水場を過ぎ、「山頂まで1km」案内板の少し下で、崩落箇所に出会う。山側に幅1mほど道が残っていたので、問題なく通れるが、折り返した下で土砂と倒木が道をふさいでいた。倒木をくぐり、しばらく下ると牧場の脇を通過して舗装道に出る。登山口には、落石のおそれ「日影山立入禁止」の案内があった。

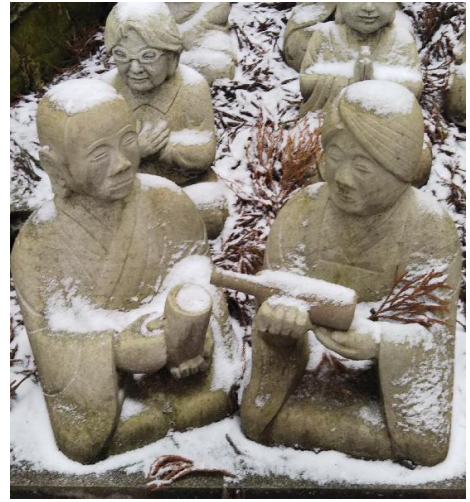
日影山登山道入口から少し下ると右手奥の民家（元鉾泉旅館）があり、建物手前に林道入口、林道「日影線」始点がある。林道で「緑とふれあいの森公園」に戻り、展望広場から遊歩道で東堂山を目指す。

遊歩道は、尾根の土塁に沿って東堂山へ伸びており、進むと東堂山の散策周回路に出会う。周回路を横断して、なお土塁に沿って進むと、東堂山の山頂に至る。山名板はないが、四等三角点（点名「東堂山」667.82m）標石がある。太い針葉樹の交じった雑木林のため、山頂の見晴らしはない。

周回路に戻り、一周すると五百羅漢・岩不動、観音堂、鐘楼、仁王門、満福寺本堂など古刹の趣きを堪能できる。本堂下の駐車場から散策路を周回し、尾根の土塁を歩いて、「緑とふれあいの森公園」へと戻った。



文責：太



タイム

9：50 緑とふれあいの森公園→10：40 登山道出合い→10：45 日影山山頂→11：40 日影山登山口

→11：45 林道「日影線」起点→12：15 林道「日影線」終点（緑とふれあいの森公園）

→12：30 東堂山周回路出合い→12：40 東堂山山頂→12：50 東堂山周回路

→13：00 五百羅漢・観音堂・鐘楼→13：10 満福寺本堂→13：45 緑とふれあいの森公園



スノウトレッキング ルート調査 大早稲沢山、築部山

2022 年 3 月 10・11、23 日 秋葉

裏磐梯は山スキー、スノウシュウのコースとして、西大巔、西吾妻、雄国沼雄子沢などが人気であるが、その他にも面白いコースがあり、今まで甚九郎山、雄国山、八森山、大曾根山、曾根太郎、戸山城跡等のコースを紹介してきた。その他にも積雪期しか行けないコースがあるはずだと調査に出かけた。

2022 年 3 月 10 日（木）大早稲沢山

以前に下山田車さんと 2 人で西大巔からコルに滑り込み大早稲沢山に登り返し、林道に滑り込んだことがある。雪庇ができていて尾根に這い上がるのに苦労したのと、ゆるい林道でスキーが滑らなくて、腕が疲れてしまった。しかし、尾根上は展望も良く快適な滑りであった。

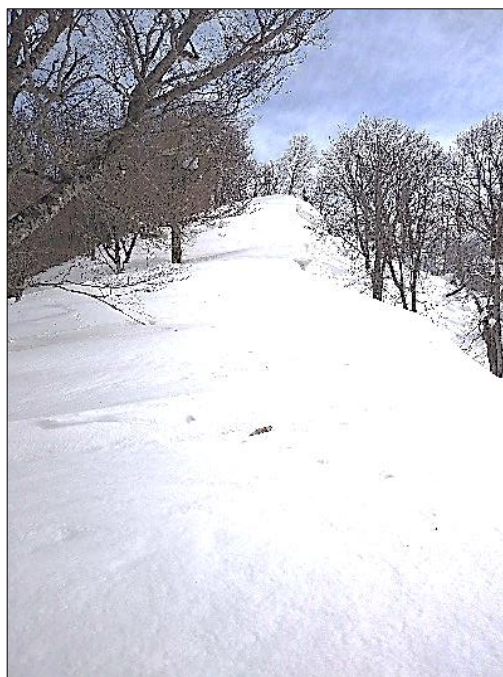
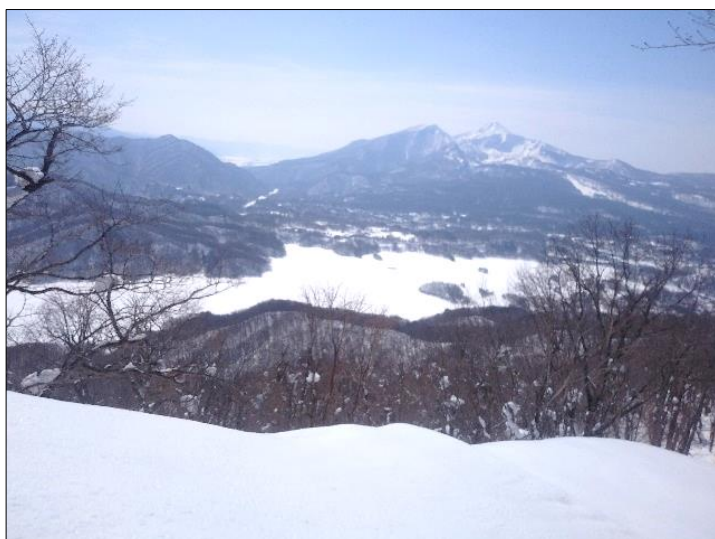
もっと楽なコースはないものかと、曾原湖の大沢から林道を辿ってみた。しかし、林道が長く、急斜面のトラバースを必要な所があり、スリップすれば口を空けている沢に落ちてしまうので断念。後日別なコース調査したい。

3 月 11 日（金）築部山

小野川湖の北、デコ平スキー場の西側に端正な山が見える。それが築部山、登山道はないので積雪期に登ってみたいとズーッと思っていた山です。

小野川湖探勝路西側入口付近から尾根に取りつく。忠実に尾根を辿る、雪庇の出ているところもあるが特に危険はない。ブナ林の中の幅広い尾根は展望も良くなる。

頂上からの展望は西大巔・西吾妻・デコ平スキー場が目の前に小野川湖を挟んで屹立する磐梯山、檜原湖を挟んで八森山、高曾根山など裏磐梯の景観がウワーッと迫ってくる。



帰りは足下の小野川湖に向かって滑り込む、快適!!

このコースは道迷いの心配、危険な所もない、お勧めのコースでした。

登り 3 時間、滑り 1 時間。

3月23日(水) 大早稲沢山リベンジ

早稲沢集落から、除雪してある畑の中の道を行くが終点で道から役 120 cm程這い上がるのがこのコースで一番難しかった。除雪されていない作業道を辿り、左側に見える堆肥舎を目指す。

1,000m付近から、尾根に取りつく。固い雪面に昨日の新雪が 3 cm程積り、スリップするのでスキーアイゼンを着けて登る。ブナの尾根を忠実に辿ると頂上に着く。登り 3 時間、滑り 50 分の快適なコースでした。

文責：秋葉



戸山城跡・会津山塩ラーメン

2022年3月13日(日)

(会員) 下山田、秋葉、根本、蛭田(一)、尾形(成)(長)、西、山縣、菊地、佐藤(幸)

(教室生) 青天目、安部、佐藤(秀)、佐藤(春)、須藤、山中

曇り空でしたが風が無く登りやすい天気でした。参加した教室生の多くは西大巔、八森山につづき今シーズン3回目のスノーシュー登山になるため、装着や歩行は慣れてきました。

檜原湖北側にある大山祇神社近くに車を止めて登り始めました。教室生が先頭になって進みます。2月山行の時の雪質とは異なり、3月は雪がしまっていて、スノーシューの沈みが少なく、比較的楽に登ることができました。城跡までの高低差は約200mと少なく、順調に登り到着しました。城跡ではツェルト講習が行われ、ツェルトを被った時の防寒が体感できました。さらにみんなで雪のテーブルを作りオヤツタイムが始まり楽しい時を過ごすことができました。

さて、昼食は今回のもう一つの目的「会津山塩ラーメン」です!! 登り口に下山すると早々に「らめんや」向いました。休日の昼時に駐車場にはたくさんの車が止まっていますが、回転が早いのでそんなに待たずに食べることができました。ラーメンには柔らかいチャーシューが5枚も入っていて大変美味しくいただくことができました。また食べに行きたくなりました!

[タイム]

8:20 登り口→9:40 戸山城跡 10:50→11:40 登り口

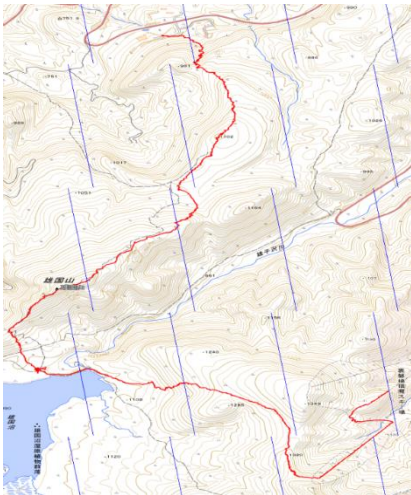
(文責: 山中)



猫魔スキー場から、雄国沼、雄国山經由 ラビスパ裏磐梯へ初めてのスキー縦走

2022年3月16日(水)

下山田、秋葉、渡辺(敏)、栗崎(透)(容)、松本、尾形、野木、山中



私の初めての本格的な山スキーは、猫魔スキー場のリフト2本を乗り継ぎ、リフト上部に出たところから始まりました。ここからトラバースして猫魔ヶ岳山頂付近まで行くには、深雪の急斜面をスキーでくしかなく、朝一のまだ固い体で、この急斜面から落ちたらと思うと急に怖くなりました。「進行方向を見てまっすぐいけばいいんだよ」とアドバイスをもらい、何とかクリア。

シールを付けずにスキーで歩いたり滑ったりしながら1時間ぐらいで尾根までたどり着きました。そこからアップダウンを繰り返しながら緩やかな下りが雄国沼まで続けました。お昼前に雄国沼休憩舎に到着、皆さん思い思いに昼飯と秋葉さんのホットワインを堪能しながら休憩しました。

午後からが今回の山行の本番で、休憩も早々にスキー板にシールを付け、午後1時過ぎ、私たちは雄国山の山頂を目指し出発しました。スキーを一步一步前に滑らせながら雪山を登ることは、この歩き方に慣れていない者にとってかなり体力を使う辛いものでした。山頂は遥かかなたに見えました。息が切れ始めた私は自然にヨガの呼吸法をしていました。ゆっくり7つ数えながら鼻から息を吸って、7つ数えながら鼻から息を吐き、自分の呼吸だけにフォーカスする。これをただ繰り返しているうちに気が付くと山頂はもう目の前。瞑想とも言える心の状態での登りは思っていたほど辛くなかったことにびっくり。天候にも恵まれ、山頂から見える景色は最高でした！山頂でシールを外し、いよいよスキーで下り始めました。所々に崖ともいえる急斜面があり、スリル満点でしたが、重い雪質だったのでスキーが暴走することなく、初の山スキーはとても楽しかったです。ペースが遅れたメンバーをサポートしながら全員がゴールのラビスパ裏磐梯に着いたのは16:30頃でした。

思えば2年前から猪苗代スキー場でスキー特訓、合宿に何度も参加させていただき、山スキーのいろはを教えていただいた山岳会の皆様に感謝です。来年はパウダーの山スキーに挑戦したいです。

(文責：野木)

【コースタイム】

水石トンネル 6:00—8:00 猫魔スキー場 9:00—リフト上部 9:21—尾根 9:54—11:22 雄国沼休憩舎 12:06—13:01 雄国山山頂 13:21—14:35 (ピーク 1102) 14:53—16:03~16:40 ラビスパ裏磐梯—猫魔スキー場 17:20—水石トンネル 20:00

三轟山（青竜ヶ岳・中岳）カタクリ群生地

2022年3月19日（土）

太、山縣、菊地、松本

カタクリ群生地などで有名な栃木県の三轟山（みかもやま）へ行き、花を觀賞しながら青竜ヶ岳、中岳のピークをめぐる。いわき市を朝5時に出発して、東北道を佐野藤岡ICで下り、「みかも山公園」東口広場に到着したのが8時前。準備を整え、公衆トイレに寄って行動開始。

ザゼンソウの咲く湿性植物園をぬけ、稜線に向けて登る。公園なので非常に良く整備されているが、階段状の散策路が多い。稜線に出て急登すると青竜ヶ岳の山頂。足利、高崎方面の展望が良く、雪を戴いた浅間山が市街地の先、遠くに望めた。そのほか、北は高原山から、南は枝越しだが富士まで見えた。山頂を北に下ると、「かたくりの里」駐車場の手前にカタクリ群生地。散策路の脇にちょうど見頃の花が咲いていた。駐車場から工業団地を抜けて西口広場、万葉庭園と進むと、アカシアなどのほか河津桜も満開。休憩所・売店でひと休み。「山頂広場」まで舗装園路を登り、階段を上がって少しで中岳の山頂。展望は樹木越しに小山市方面が少し。東口広場へ下山する途中に「かたくりの園」がある。こちらの群生地は散策路から栈橋型の観察路が延びており、見事なカタクリが楽しめた。

文責：太

タイム

8:15 東口広場→9:00 青竜ヶ岳→9:35 かたくりの里（群生地）→10:25 西口広場
→10:55 万葉庭園→11:35 中岳→かたくりの園（群生地）→12:15 東口広場



ミツマタ群生地を訪ね鶏足山・焼森山

2022年3月20日（日）

檜村2、太、菅野、山縣、菊地

ミツマタ群生地を訪れるため、茨城県側から鶏足山を登り、群生地、焼森山、赤澤富士と周回。

茨城県城里町上赤沢の鶏足山駐車場には朝7時前に到着したが、既に満車。ちょうど下山者がいて、運よく駐車できた。参考まで駐車場トイレは小さいがウォシュレット付。

駐車場から少し北の裏登山口から登り、鶏足山に向かう。距離は長くなるが、赤澤富士を経由よりは幾分か傾斜が緩い。天気が良く鶏足山からは富士山が望めた。山頂から見晴台を経由して鶏石に立ち寄り、ミツマタ群生地付近の林道に下りた。群生地入口にはベンチのほか仮設トイレが置かれ、大勢の人がくつろいでいた。協力金300円を納めて散策路に入ると、林の中の群生地は幻想的な世界。群生地からは新道で焼森山に登り、鶏足山、赤澤富士を経由して駐車場に戻った。

タイム

7:30 鶏足山裏登山口→8:25 鶏足山山頂→8:45 見晴台→8:55 鶏石→9:40 ミツマタ群生地→11:50 焼森山山頂→12:10 鶏足山山頂→12:30 赤澤富士山頂→12:50 鶏足山駐車場

